

# 平成29年度 事業報告

## 事業の概要

本年度の事業の概要は次の通りであります。

### 1、研究助成(公募)

公衆衛生の向上及び生活環境の保全を促進させる。  
研究や活動を行っている個人又は団体に対し助成金を支給  
今年度は下記2テーマに関連する研究を助成対象としました。

#### ①「感染症及び外来生物」

- ・募集期間 4月～12月
- ・応募件数 29件
- ・助成支給件数 18件 (100万円/件)

「イナトミシオカが媒介する鳥マラリア原虫の多様性と宿主鳥類の探索」

鳥取大学 准教授 金 京純

「双翅目昆虫サンショウバエの殺虫剤抵抗性分子機構の解明」

東京大学大学院 助教 三條場 千寿

「マダニが媒介するボレリア属細菌の進化生態機能ゲノム学的研究」

国立感染症研究所 室長 関塚 剛史

「都市域におけるアルゼンチンアリ根絶とその確認手法の検討と確立」

京都府保健環境研究所 課長 中嶋 智子

「特定外来生物ヒアリに対する化学防除が水生生物に及ぼす生態環境リスク評価」

国立環境研究所 特別研究員 降場 駿介

「重症熱性血小板減少症候群ウイルスの病原因子NSsとマダニ因子間の相互作用の解析」

広島大学大学院 助教 小田 康祐

「蚊における簡便で安定した系統保存法開発に向けた人工授精技術の確立」

自治医科大学 講師 山本 大介

「遺伝子改変マダニを利用したマダニ媒介感染症の伝播メカニズム解析」

北里大学 講師 八田 岳士

「外来生物の侵入に伴った寄生性微生物の分散パターンの検出と宿主応答の変異」

東京農工大学 講師 井上 真紀

「蚊あるいはヒトが放出する他感作物質の同定とこれを母核とする新規忌避化合物の創成」

長崎大学 准教授 川田 均

「節足動物の免疫記憶・遺伝によるアルボウイルス感染制御機構の解明」

北海道大学大学院 特別研究員 内田 祥子

「山口県内におけるダニ媒介性細菌感染症の疫学的調査研究」

山口大学 准教授 高野 愛

「キボシカミキリの誘引フェロモンの解明」

千葉大学大学院 教授 中牟田 潔

「難培養性微生物由来の新たな感染症媒介昆虫制御物質の探索研究」

広島大学大学院 助教 山野 喜

「訪花昆虫相における病原体Nosema属微胞子虫の腸内微生物相との関係解明」

岐阜大学 教授 土田 浩治

「外来侵入アリの餌利用とコロニー内栄養循環過程に注目した生態・行動特性に関する研究」

香川大学 教授 伊藤 文紀

「ツマアカスズメバチをはじめとするスズメバチ類の薬剤ベイト手法の確立」

国立環境研究所 特別研究員 岸 茂樹

「希少糖をハマダラカに吸わせて原虫発育を抑制する、新規マラリア伝播阻止法の開発」

香川大学 准教授 新井 明治

②「食品加工・調理における危害微生物の研究等」

- ・募集期間 4月～12月
- ・募集件数 8件
- ・助成支給件数 5件 (100万円/件)

「ガス置換包装による加熱後芽胞の制御に関する研究」

北海道立総合研究機構 研究職員 小林 哲也

「新規機能水を用いたノロウイルス制御法に関する研究」

琉球大学 准教授 作道 章一

「プロバイオティクスを活用した安全性の高い食中毒予防技術の開発」

広島大学大学院 特任准教授 野田 正文

「感染性胃腸炎に有効な麹菌由来の毒素阻害物質および抗菌物質の構造と機能に関する研究」

広島大学大学院 特任助教 ナランダライ タンシーツウオーダロ

「低温加熱での危害微生物の挙動とその殺菌特性に関する研究」

国立医薬品食品衛生研究所 非常勤職員 山本 詩織

## 2、シンポジウム開催

・「身近に迫る脅威!!”感染症と危険害虫”」と題し、ジカウイルス感染症や海外の感染症などに対して正しい知識と情報を周知するためにシンポジウムを開催した。

日時 平成29年5月23日 13時より

場所 西区民文化センター ホール

参加人数 約150名

・「身近に迫る脅威!!2017夏”ヒアリ侵入と昆虫媒介感染症の現状と対策”」と題し、外来生物の危険性について正しい知識と情報を伝えるべくフマキラー(株)との共同開催で実施した。

日時 平成29年7月27日 13時より

場所 ベルサール東京日本橋

参加人数 約100名

## 3、奨学金事業

公衆衛生の向上や生活環境の保全を進める人材育成のため、国内の大学院生とアセアン諸国からの留学生に対し奨学金を支給した。

・平成29年10月より奨学生6名に月額5万円給付実施